



津別町長 佐藤 多一

再生 続くまちなか

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい平成29年の新春を穏やかに迎えたいこととお喜び申し上げます。

さて、私たちが住む津別町は、人口減少が進み、昨年11月ついに5000人を割り込み4988人となりました。人口の4割を高齢者が占め、数は頭打ちの状態ですが毎年80名ほどの方が命を終えられています。一方、新しい命の誕生は20名余りで、人口の自然減が進行しています。

こうした現実を踏まえ、一昨年に「津別町人口ビジョン」を策定し、地方創生の取り組みを進めているところですが、目指すは目標とする人口規模に見合ったコンパクトなまちづくりであり、2040

年の人口を3267人と想定し多彩な取り組みを展開しています。

コンパクトなまちづくりは、地方創生が叫ばれる以前から取り組んでいますが、その第1の矢は、町営住宅の整備でした。役場庁舎と津別病院の間を中心点として半径500メートルの円を描き、「歩いて暮らせる木の住まいづくり」を基本に、平成22年度から平成28年度までに116戸の住宅を建設し、その一方で老朽化したものは順次取り壊しを進めているところ

の充実を期待して健康福祉センターの早期建設を望む声が多く、反面、内容をさらに検討し建設計画にもう少し時間をかけるべきとの意見もあつたところです。最短で2年後の建設着手を考えていますと伝えてきたところですが、さらに具体的に検討すべき課題があると判断し、まずは新年度予算に建設計画づくりの費用を計上したいと考えています。計画をよく練り、よく話し合い、そして納得のいくものを建設していきたいと思

います。

市街地の住宅整備はこの3月で一段落しますが、今年に移住者や地域おこし協力隊員の転入が相次いでいる相生地区に町営住宅を整備する計画であり、また、本岐地区は建替計画に基づき設計を行う年としています。

コンパクトなまちづくりの第2の矢は複合庁舎の建設です。昭和33年に建設し築59年を迎える役場庁舎と昭和38年に建設した津別農協事務所、これに津別町では未設置の「健康福祉センター」を合築させた複合庁舎の建設を進めたいと考えています。昨年10月末から12月上旬にかけて、まちづくり懇談会を開催し、現時点での町の考えを伝え、皆さんと意見交換を行ってきたところです。

また、高速道路網が道東へと延伸される中、観光道路として王道ではありませんが、町内を走る国道240号にハンドルを向けてもらうための観光力を向上させなければなりません。滞在時間を増やすための仕掛けが必要であり、その取り組みの一環として、今年は木材工芸館を含むその周辺のリニューアル設計に着手し、また、筑波大学生や北海道大学生から提案された「道の駅あいおい」を観光拠点とする事業に取り組み、町の魅力を上げていくことが必要と考えています。

懇談会では様々な意見が出されました。高齢者の方はサロン活動

結びに、今年の干支は酉ですが商売繁盛の年と言われています。皆様にとりましても景気の良い年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

への影響が懸念されることである

の委託の準備が進められています。

新年 謹賀



住民の目線に

立った議会



津別町議会議長 鹿中 順一

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年の日本経済は、4月に発生した熊本地震、8月中旬以降に相次いで北海道などに上陸した台風の影響や、個人消費や設備投資の伸び悩みなどを背景に景況感が悪化し、景気回復は力強さを欠き、先行きの不透明感が強まっている状況が続いています。

政府は、消費税率10%への引き上げを平成31年10月から再延期し、景気を下支えする大型経済対策として第2次補正予算が組まれ、アベノミクスを加速させたい考えですが、景気浮揚につながるかは不透明であり、先行きの地方経済

TPP発効については、米国大統領の交代により厳しい状況になっていますが、いざれにしても、農業、林業、林産業が基幹産業である本町の経済活動にどのような影響を及ぼすのか、また、政府による対策が十分講じられるのか注視していく必要があります。

そのような中、本町の基幹産業の一つである農業分野では、昨年度営農地再編整備事業がスタートし、今年度は意欲のある農業者等が高収益な作物・栽培体系への転換を図るための取り組みを総合的に支援する産地パワーアップ事業が始まることになりましたが、農業振興を基幹とした地域経済の活性化を推し進め、国際競争に対抗しうる強い農業基盤を築くため、本事業が関係者の協力のもと順調に推進されることを願うものであります。

老朽化したインフラの整備では、共和の一般廃棄物最終処分場が残り5年ほどで飽和状態になることから、新規処分場供用開始に向けての整備計画、水道事業では、昭和56年布設の上里地区導水管約10kmの更新のための整備計画が進められております。

町道等の維持管理関係では、町道の除排雪については、これまで直営と一部委託で行われておりましたが、維持管理も含め、民間へ

また、老朽化した庁舎を含む複合施設の整備計画も進められていますが、公共施設等総合管理計画や中心市街地活性化に向けた、まちなか再生事業と連動させた取り組みに期待するところです。

国は今、1億総活躍社会の実現に向けて、地方創生の本格展開を加速させるとしております。町では、まち・ひと・しごと創生総合戦略を確実に推し進め、地場産業の活性化、雇用対策、福祉や少子化対策などの分野で積極的に取り組みを進めています。

当議会においても、住民の目線に立ち、真に開かれた議会を目指すとともに、町民の声を反映しながら、まちづくりのため議会としての機能を十分に発揮して参る所存であります。結びになりますが、本年が町民の皆様にとって明るく希望ある一年となりますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。